

経営比較分析表（令和4年度決算）

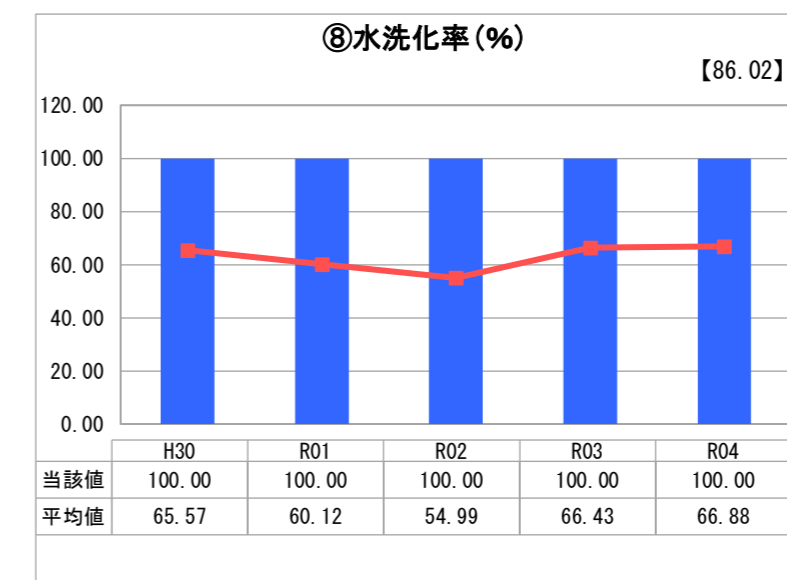
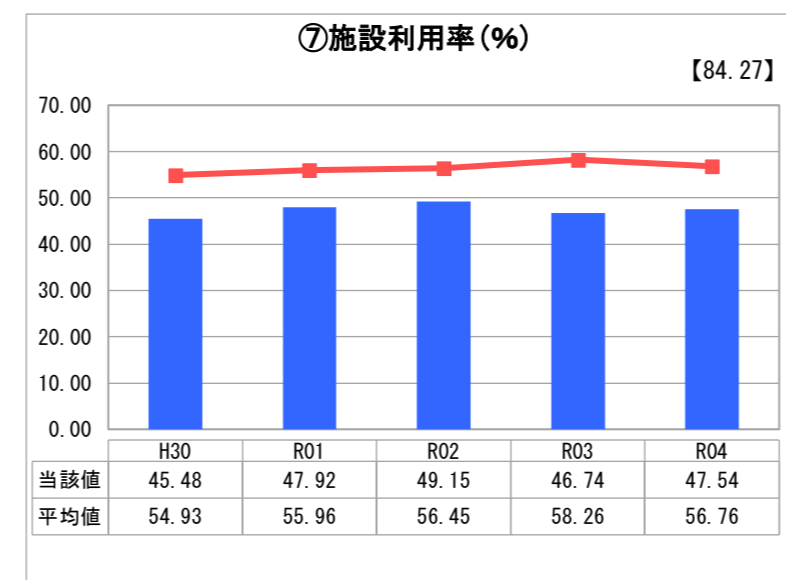
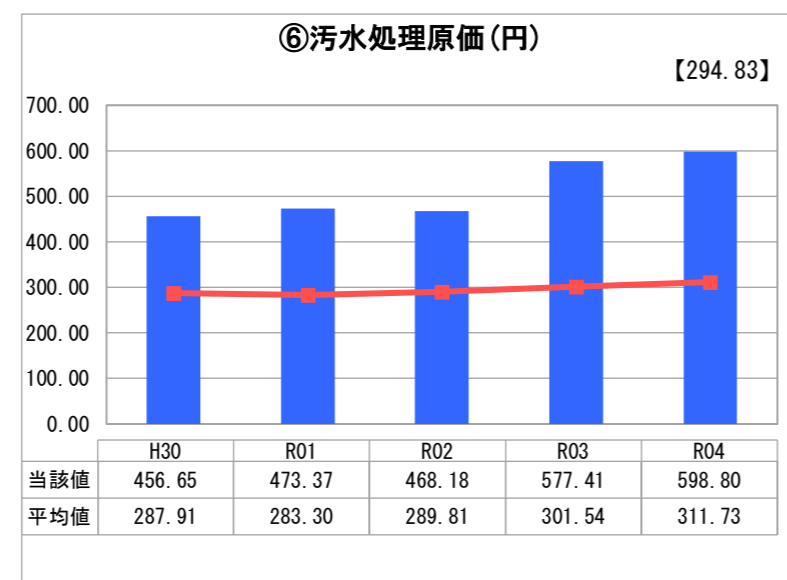
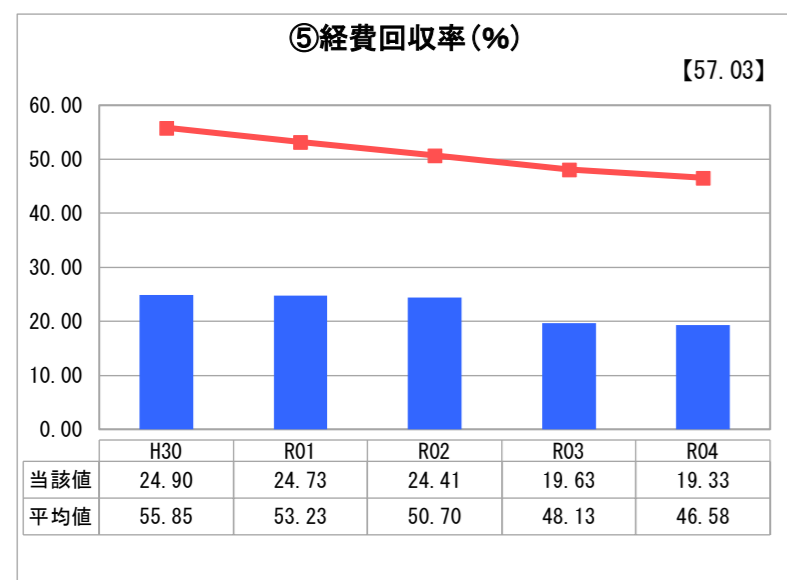
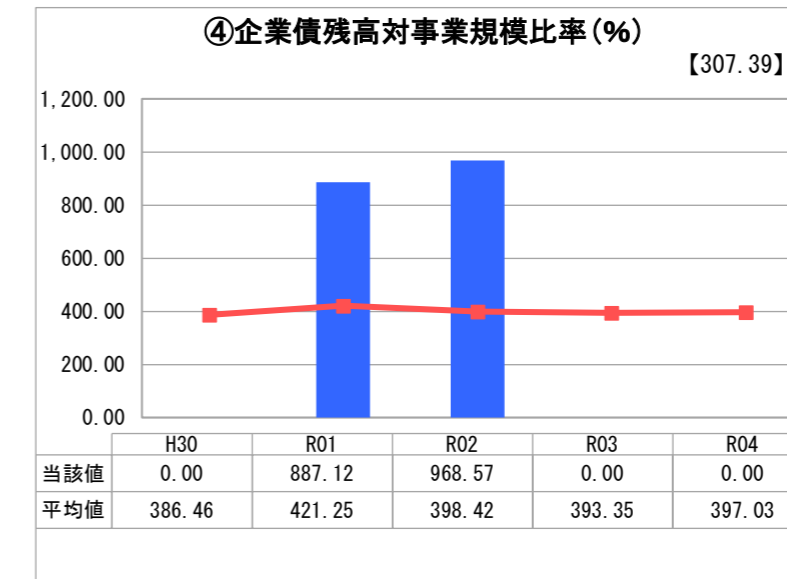
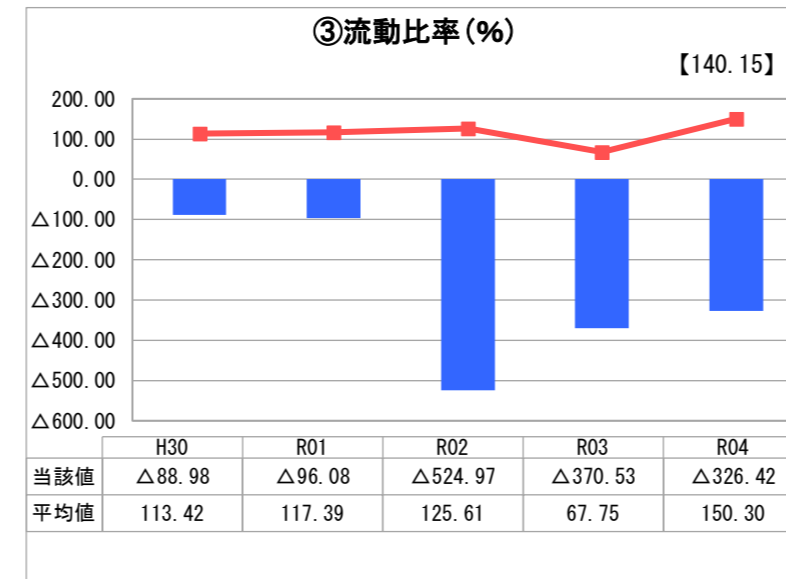
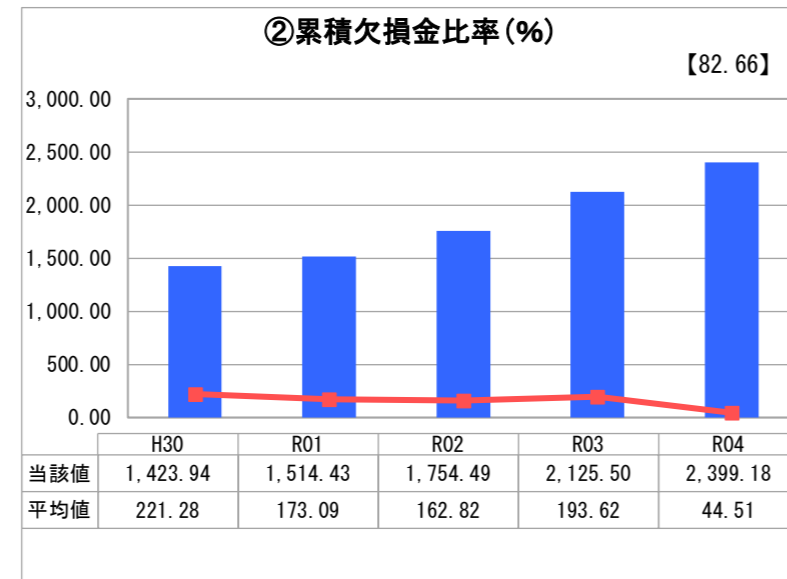
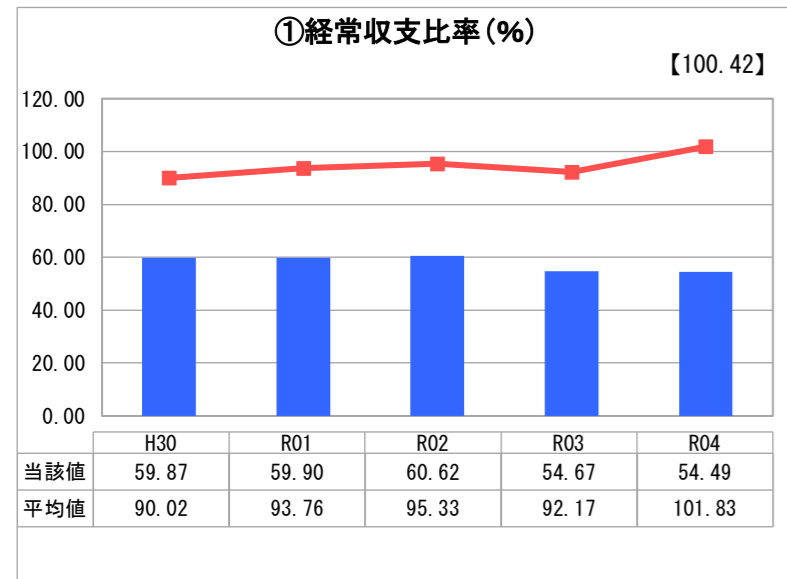
神奈川県 相模原市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	52.91	0.42	100.00	2,036

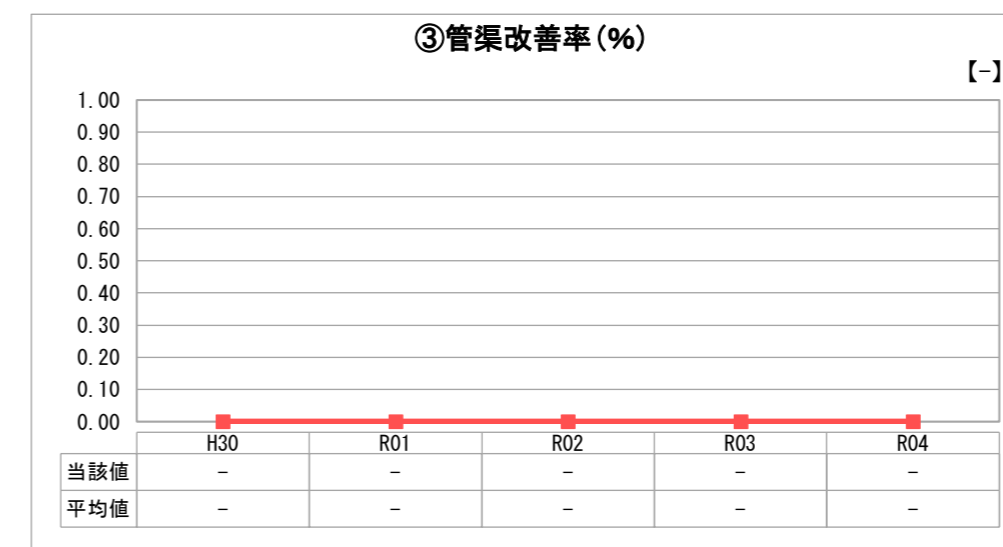
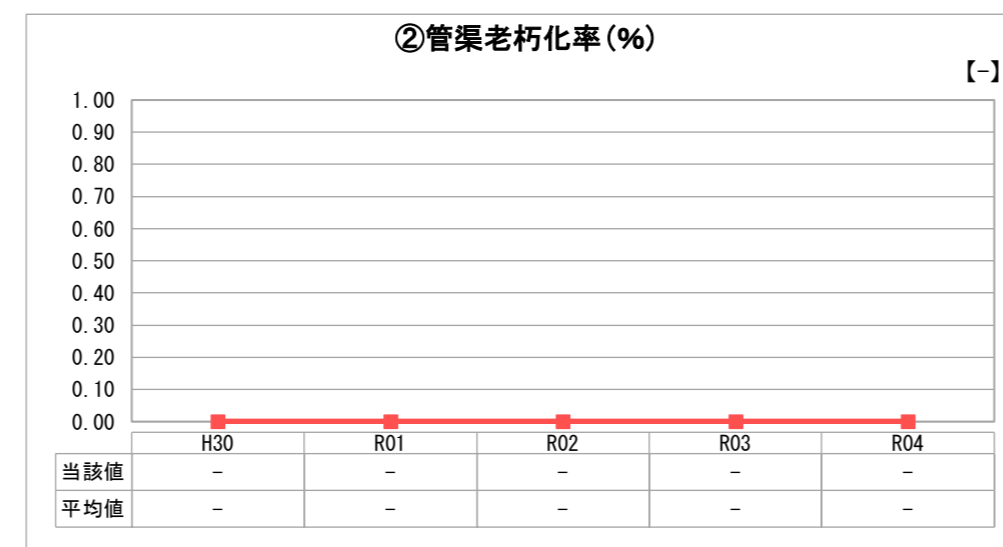
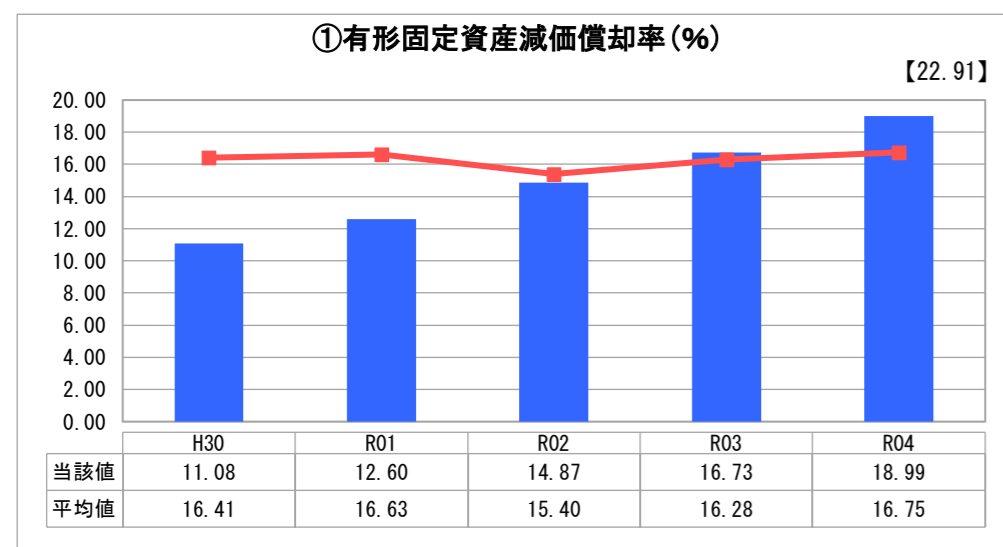
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
719,118	328.91	2,186.37
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,993	-	-

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率及び⑤ 経費回収率は、一般的な浄化槽と比較して、水源地域の水質改善に要する経費が割高であることから、低率となっているが、本市では、生活排水処理という同じ目的の行政サービスであることから、公共下水道事業及び農業集落排水事業と同一の会計としており、全体の収支は概ね均衡している。
⑦ 施設利用率は、50%以下をほぼ横ばいで推移していることから、法令に基づき適切に維持管理するとともに、計画的に修繕等を実施する必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 管渠老朽化率及び③ 管渠改善率とともに、本事業が平成21年より供用開始したことから、標準耐用年数に近い資産が少ないため低い水準となっている。

全体総括

通常の合併処理浄化槽では、窒素・リンが除去できず、それらがダム湖に流れ込むことでアオコが大量発生するなど水質汚濁が進んでいる。
本事業は、窒素・リンも除去可能な高度処理型の浄化槽を市が設置及び管理していくことで、水源環境を保全することを目的としているが、今後、設備の標準耐用年数に伴い必要となる老朽化対策により、本事業の収支が下水道事業会計の負担にならないよう、コスト意識を持って経営を進める必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。